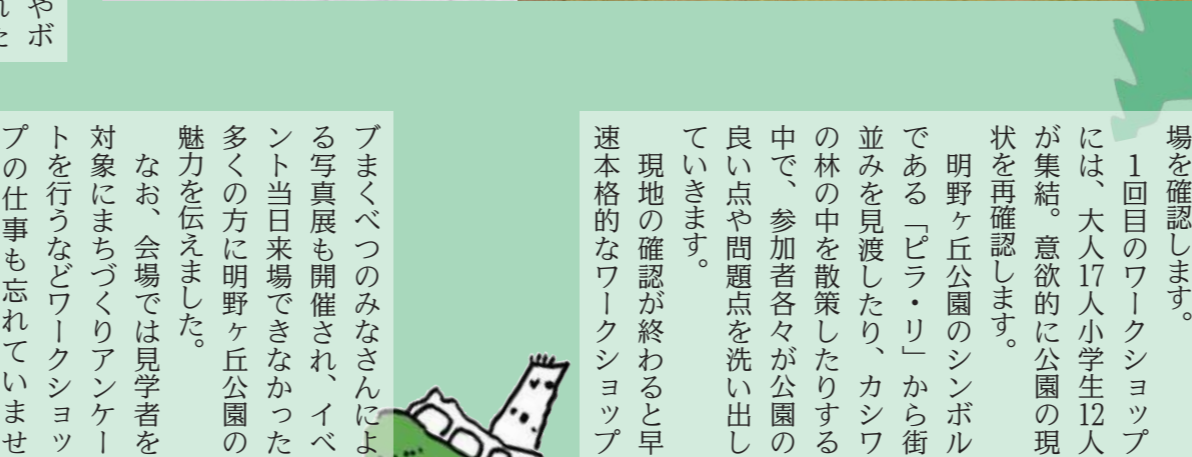


町の未来をみんな考えて考える

明野ヶ丘公園再整備 ワークショップ

ファン・プロジェクト・まくべつ

明野ヶ丘公園やまくべつの町づくりについて考えるワークショップ「ファン・プロジェクト・まくべつ」が精力的に活動を続けています。
再整備が予定されている明野ヶ丘公園を楽しみたいものにと、町内外から多くの方が参加して、公園のあり方や町の未来について意見を交わしています。また、社会実験イベントの開催などを通じ、より多くの方から意見や課題を発掘しています。



令和2年10月、明野ヶ丘公園の再整備方針の策定のために第1回目が開催された明野ヶ丘公園再整備ワークショップ「ファン・プロジェクト・まくべつ」。回を重ねるたびに参加者の町づくりに対する想いや熱量は高まっています。

知る

第1回目の大きな目的の一つは「知る」こと。まずは現状の明野ヶ丘公園がどのようなものなのか参加者が意識共有できるように現場を確認します。

1回目のワークショップには、大人17人小学生12人が集結。意欲的に公園の現状を再確認します。

明野ヶ丘公園のシンボルである「ピラ・リ」から街並みを見渡したり、カシワの林の中を散策したりする中で、参加者各々が公園の良い点や問題点を洗い出していきます。

現地の確認が終わると早速本格的なワークショップ

の開始。「大人チーム」と「小学生チーム」に分かれて、それぞれが思い描く明野ヶ丘公園や幕別町の未来の姿を語り合います。
大人チームは、幕別町にちなんだお題のイラストが描かれた「プレストカード」を使用して、お題に沿った公園や町の未来像について語り合いました。

描く

一方、小学生チームは、さらに踏み込んだ活動を行います。

参加した小学生が協力して、未来の明野ヶ丘公園と幕別町を描いた「みらい物語」をつくるというもの。

自由な発想により、実際の幕別町と架空の町、幕別町を重ねながら、楽しい物語を作り上げていきます。起承転結の「結」を残して第1回のワークショップは終了。次回までにそれぞれの結末を持ち寄ることになりました。

それぞれの考えた「みらい物語」の結末を発表する

ブまくべつのみなさんによる写真展も開催され、イベント当日来場できなかった多くの方に明野ヶ丘公園の魅力を伝えました。

なお、会場では見学者を対象にまちづくりアンケートを行うなどワークショップの仕事も忘れていません。

明野ヶ丘公園再整備ワークショップはこれまで5回開催しています。今後も開催予定がありますので興味のある方は、ぜひ参加してください。

問 土木課公園整備係 ☎(54) 6622

「ファン・プロジェクト・まくべつ」の取り組みは、町ホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。



催す

一つの形を作った小学生チームに負けじと大人チームにも一つの動きが……。プレストカードを用いた

ことから始まった第2回ワークショップ。寄せられた結末はどれも独創的で、自分の考えた結末に強い思い入れがあり、なかなか一つに絞ることは難しい。結果、エンディングが2種類ある少し珍しい形の物語が完成しました。

この「幕別みらい物語」は絵本となって図書館などで閲覧できますので、子どもたちが描いた未来の明野ヶ丘公園を、未来の幕別町をぜひご覧ください。

意見交換の中にいくつかのキーワードが含まれていた。「自然や星空、ピラ・リなどすでにあるものを活かす」「人が来るための仕掛けが不足」というもの。そこで考えたのが自分たちの手で、明野ヶ丘公園の資源を生かしたイベントを開催すること。そのイベントが「MAKIBETSU TSUNAGU LANTERN/SPRING」(まくべつ・つなぐ・ランタン・スプリング)です。

このイベントは、ワークショップ参加者や企画に賛同してくれた方が手作りした紙ランタンで明野ヶ丘公園を灯すというもの。ワークショップ参加者は1100個の紙ランタン



を幕別清陵高校の生徒やボランティア参加してくれた方々の手を借りながら一つ一つ配置、点灯します。すべてのランタンに火が灯されると明野ヶ丘公園はとても幻想的な雰囲気にも包まれ、訪れた見学者も驚きと感動の中でゆっくりと流れる時間を温かいスープを飲みながら過ごしました。その後、4月にはフォトクラ

幕別みらい物語が絵本に!

ワークショップの中で「小学生チーム」が自由な発想のもと、明野ヶ丘公園や幕別町の未来について語り合い、作り上げた未来の物語「幕別みらい物語」が絵本になって町内4カ所の施設で閲覧できます。

絵本を通じて子どもたちの町の未来にける情熱を感じてみてください。



「幕別みらい物語」 を読める施設

- 幕別町図書館
本館・札内分館・忠類分館
- 札内コミュニティプラザ